2019 年秋期の堅果類等の豊凶とツキノワグマの出没予測（2019 年 10 月 4 日）

島根県中山間地域研究センター

1. 目撃、被害、捕獲の状況

今年度の上半期のツキノワグマの出没件数（目撃、被害、痕跡、捕獲件数を含む）は 2017、2018 年とほぼ同様の水準であり、出没の多かった 2016 年よりは少なかった（図 1）。有害捕獲は、5~9 月に各 1~10 頭の合計 23 頭であった。いずれも益田、浜田地域であり、5 月は蜜胴、米ぬか（精米器）、6 月は蜜胴、ビワ、7 月はヤマモモ、8 月は養蜂、ヤマモモおよびコンポスト、9 月は蜜胴、総菜屋の廃棄油への被害に対する捕獲であった。イノシシ捕獲用のわなへの錯誤捕獲は、4~9 月に各 11~24 頭の合計 102 頭と、有害捕獲よりも多かった。

4~7 月に捕獲された個体のうちオスの占める割合は 81%と、8 月以降の 51%に比べて多くを占めた（図 2）。4~7 月に捕獲された個体の年齢を推定するために、2003~2018 年の 4~7 月に捕獲された 1~3 歳の個体の体重、全長と比較した（図 3）。体のサイズが大きいオス成獣も捕獲されたものの、1~3 歳の個体が多くを占めたと考えられた。これらのことから、4~7 月は繁殖期に入って行動が活発になったオス成獣と、出生地からの分散過程で人里付近へ出没した警戒心の少ない若いオスが多く捕獲されたと考えられる。また、8 月は春季の餌（新芽・若葉、タケノコ、ウワミズザクラなど）から秋季の餌（コナラ、シバグリ、クマノミズキなど）に移行する端境期にあたるため、餌不足によって捕獲された個体が増加したと考えられた。なお、9 月は餌となるクマノミズキ、シバグリが実ったためか、8 月と比較して有害捕獲数は減少した。

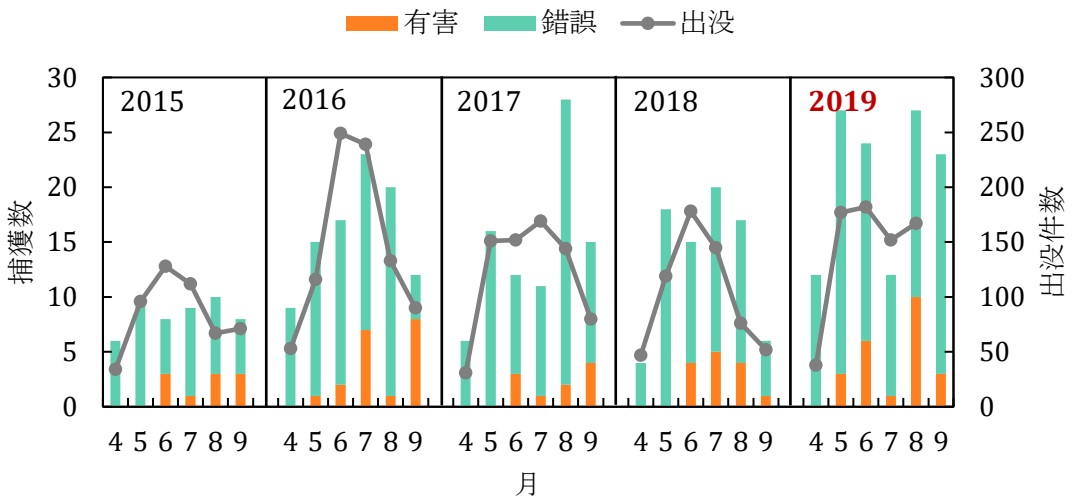


図 1. 過去 5 年間の 4~9 月のツキノワグマの出没状況と捕獲数

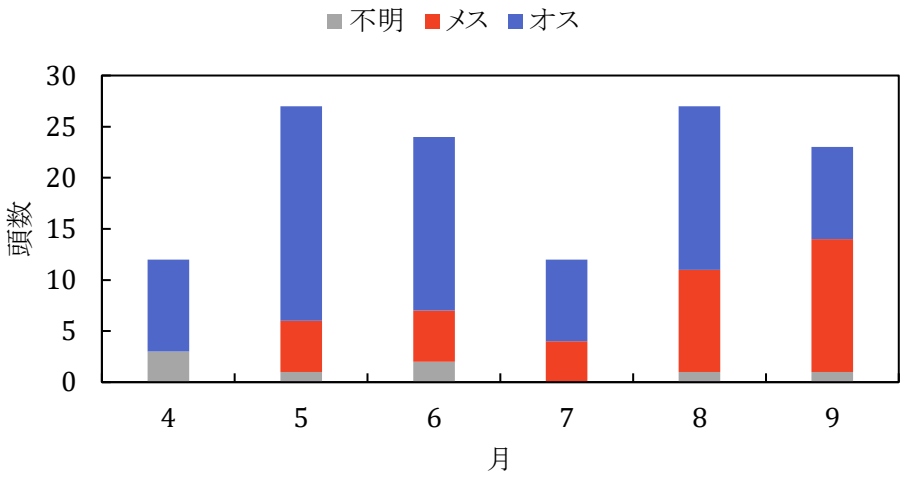


図 2.　2019 年 4~9 月の性別の捕獲数

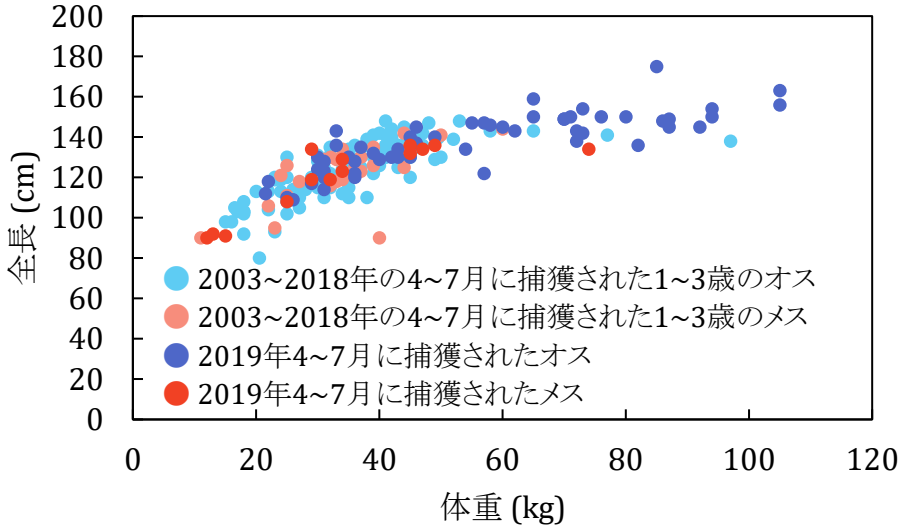


図 3.　2019 年 4~7 月に捕獲された個体と、
過去に捕獲された 1~3 歳の個体の全長、体重の比較

2.　堅果類等の豊凶の状況（9 月上旬の目視調査による評価）

| | | | |
|---|---|---|---|
| クマノミズキ | 豊作 | スダジイ | 豊作 |
| シバグリ | 豊作 | ブナ | 凶作 |
| コナラ | 並作 | ミズナラ | 凶作 |
| アラカシ | 豊作 | | |

3. 今後のツキノワグマの出没予測

10 月以降はコナラ、アラカシなどが豊作で実ると予想されることから、人里への出没や被害発生は増加しないと予測する。ただし、晩秋になると熟柿を狙って出没する個体がいるので、カキへの被害対策が必要である。なお、ミズナラ、ブナは凶作であるが、本県での分布はいずれも標高の高い地域（600 m 以上）に限られるため、ツキノワグマの出没への大きな影響はないと考えられる。

今後、今年度に捕獲された個体の年齢、胃内容物、栄養状態などの分析を行って、5～9 月に多かった出没との関連を調査する予定である。